

平成31年度リンゴ病害虫防除暦

黒部市果樹振興会

回数	月	散布時期	散布日	対象病害虫	使用農薬	使用基準			液100ℓ当たり薬剤量	10a当たり散布量	注意事項
						使用倍率	収穫前日数	使用回数			
1	3月	発芽直後	/	ハダニ類	トモノールS	100 倍	発芽後2週間まで	－ 回	1 ℓ	300 ℓ	◎ 休眠期に粗皮削りを行う。
2	4月	中旬	/	黒星病・黒点病 斑点落葉病・褐斑病 ハマキムシ類、シンクイムシ類	アントラコール顆粒水和剤 ダーズバンDF (展 マイリノール)	500 倍 3,000 倍 20,000 倍	4 5 日 4 5 日	4 回 1 回	200 g 33 g 5 cc	350 ℓ	◎ うどんこ病の被害枝や葉は見つけ次第切り取る。
3		下旬 開花直前	/	黒星病・赤星病・褐斑病 うどんこ病・斑点落葉病 黒星病・赤星病・黒点病 褐斑病・斑点落葉病	アンビルフロアブル トレノックスフロアブル (展 マイリノール)	1,000 倍 500 倍 20,000 倍	7 日 3 0 日	3 回 5 回	100 cc 200 cc 5 cc	500 ℓ	◎ 開花期前後は黒星病の重要防除時期である。 ◎ リンゴコブアブラムシの発生が多い園地では、ウララDF(4,000倍、14日前、2回)を加用する。
4	5月	上旬 落花直後	/	黒星病・赤星病・褐斑病 黒点病・うどんこ病 ハマキムシ類・ケムシ類・シャクトリムシ類	テーク水和剤 ファイブスター顆粒水和剤 (展 マイリノール)	600 倍 3,000 倍 20,000 倍	3 0 日 前 日	3 回 － 回	166 g 33 g 5 cc	500 ℓ	
5		中旬	/	黒星病・褐斑病・斑点落葉病 黒星病・赤星病・黒点病 褐斑病・斑点落葉病 果面保護	ユニックス顆粒水和剤47 トレノックスフロアブル クレフノン (展 マイリノール)	2,000 倍 500 倍 100 倍 20,000 倍	1 4 日 3 0 日	4 回 5 回	50 g 200 cc 1000 g 5 cc	500 ℓ	◎ 幼果期は果皮が弱く薬害が生じやすいのでクレフノンを混用する。 ◎ モモチャクシガラムシの被害が多い園地では、モスピラン顆粒水溶剤(4,000倍 前日 3回)を特別散布する。
6		下旬	/	黒星病・斑点落葉病 炭疽病・輪紋病 アブラムシ類・キンモンボリガ ハマキムシ類・シンクイムシ類 果面保護	デランフロアブル サイアノックス水和剤 クレフノン (展 マイリノール)	1,000 倍 1,000 倍 100 倍 20,000 倍	6 0 日 4 5 日	3 回 2 回	100 cc 100 g 1000 g 5 cc	500 ℓ	◎ 「千秋」など裂果しやすい品種の袋掛けは薬剤散布後に行う。 ◎ 5月下旬頃よりハダニ類の発生が懸念されるので園内を十分に見回り、見つけたら下記防除薬剤により防除を行う。
7	6月	上旬	/	黒星病・斑点落葉病 炭疽病・輪紋病 キンモンボリガ・コナカイガラムシ類 アブラムシ類・シンクイムシ類	デランフロアブル バリアード顆粒水和剤 (展 マイリノール)	1,000 倍 4,000 倍 20,000 倍	6 0 日 前 日	3 回 3 回	100 cc 25 g 5 cc	500 ℓ	
8		中旬	/	褐斑病・斑点落葉病 黒星病・輪紋病・炭疽病 カメムシ類・シンクイムシ類 ハマキムシ類・カイガラムシ類	フリントフロアブル25 スプラサイド水和剤 (展 マイリノール)	3,000 倍 1,500 倍 20,000 倍	前 日 3 0 日	4 回 2 回	33 cc 66 g 5 cc	500 ℓ	◎ ハダニ類の発生に注意する。(別表参照) 殺ダニ剤の散布の2～3日前までに下草刈りを行う。
9		下旬	/	輪紋病・斑点落葉病 褐斑病・炭疽病 褐斑病	オキシラン水和剤 トップジンM水和剤 (展 マイリノール)	500 倍 1,500 倍 20,000 倍	1 4 日 前 日	4 回 6 回	200 g 66 g 5 cc	500 ℓ	
10	7月	上旬	/	褐斑病・斑点落葉病 輪紋病・炭疽病 キンモンボリガ・シンクイムシ類 カメムシ類・アブラムシ類	パスポートフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 (展 マイリノール)	1,000 倍 4,000 倍 20,000 倍	4 5 日 前 日	3 回 3 回	100 cc 25 g 5 cc	500 ℓ	◎ハダニ類の発生に注意する。(別表参照)
11		中旬	/	褐斑病・斑点落葉病 モモンカイガ・ハマキムシ類・カメムシ類 クロナカイガラムシ・アブラムシ類	ユニックス顆粒水和剤47 スミチオン水和剤40 (展 マイリノール)	2,000 倍 1,000 倍 20,000 倍	1 4 日 3 0 日	4 回 3 回	50 g 100 g 5 cc	500 ℓ	
12		下旬	/	褐斑病・斑点落葉病 輪紋病・炭疽病	ダイパワー水和剤 (展 マイリノール)	1,000 倍 20,000 倍	前 日	3 回	100 g 5 cc	500 ℓ	
13	8月	上旬	/	褐斑病 キンモンボリガ・ハマキムシ類 シンクイムシ類	トップジンM水和剤 フェニックス顆粒水和剤 (展 マイリノール)	1,500 倍 4,000 倍 20,000 倍	前 日 前 日	6 回 2 回	66 g 25 g 5 cc	500 ℓ	◎ 落果防止剤を散布する場合は、収穫開始25日前頃にストッパール液剤1,000～1,500倍液を散布する
14		中下旬	/	褐斑病・斑点落葉病・輪紋病 すす点病・すす斑病 ハマキムシ類・ケムシ類 キンモンボリガ・シンクイムシ類	ベフラン液剤25 サムコルフロアブル10 (展 マイリノール)	1,500 倍 5,000 倍 20,000 倍	前 日 前 日	3 回 3 回	66 cc 20 cc 5 cc	500 ℓ	◎ 早生品種の収穫時期が近いので、農薬使用規準を遵守する(収穫前日数)。
15	9月	上旬	/	褐斑病・斑点落葉病・輪紋病 炭疽病・すす点病・すす斑病 ナミハダニ・シンクイムシ類・ハマキムシ類・キンモンボリガ	ナリアWDG ロディー水和剤 (展 マイリノール)	2,000 倍 1,000 20,000 倍	前 日 前 日	3 回 2 回	50 g 100 g 5 cc	500 ℓ	◎ 中生品種の収穫時期が近いので、農薬使用規準を遵守する(収穫前日数)。
16		中下旬	/	褐斑病・斑点落葉病・輪紋病 すす点病・すす斑病	ベフラン液剤25 (展 マイリノール)	1,500 倍 20,000 倍	前 日	3 回	66 cc 5 cc	500 ℓ	◎ 褐斑病の被害落葉は、翌年の重要な伝染源となるため、発生の多かった園地では、①被害落葉を収集し園外に持ち出す、②乗用草刈機により落葉を粉碎する、③ロータリーにより落葉をすき込む、のいずれかの処理を実施する。 なお、落葉処理は3月中旬までに完了する。

別表※ 殺ダニ剤の散布時期については、発生状況に応じて特報で案内します。

	散布時期	対象病害虫	薬剤名	使用基準			液100ℓ当たり薬剤量	備考	
				使用倍率	収穫前日数	使用回数			
殺ダニ剤	5月下旬	リンゴハダニ	ピラニカ水和剤	2,000 倍	2 1 日	1 回	50 g	500 ℓ	◎ピラニカ水和剤はリンゴハダニのみの発生時に使う。 ◎ダニゲッターフロアブルは成虫に対する効果が劣るので散布が遅れないように気をつける。 ◎同一薬剤の使用は年一回とする。 ◎コロマイト乳剤は単用散布とする。その他の薬剤も基本的には単用での散布が望ましい。
	6月上旬	リンゴハダニ・ナミハダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	前 日	1 回	50 cc		
	7月中下旬	ハダニ類	スターマイトフロアブル	2,000 倍	前 日	1 回	50 cc		
	予備剤	ハダニ類	オマイト水和剤	750 倍	3 日	1 回	133 g		
	予備剤	ハダニ類	コロマイト乳剤	1,000 倍	前 日	1 回	100 cc		

- ※ 基本防除を守り、品質の良いリンゴを生産しましょう！
※ 農薬の使用基準を守り、安全なリンゴを生産しましょう！
※ 農薬の保管・取り扱いには十分注意しましょう！

平成31年度リンゴ病害虫防除暦（未結実樹）

黒部市果樹振興会

回数	月	散布時期	散布日	対象病害虫	使用農薬	使用基準			液100 ^{リットル} 当たり薬剤量	10a当たり散布量	注意事項
						使用倍率	収穫前日数	使用回数			
1	3月	発芽直後	/	ハダニ類	トモノールS	100 倍	発芽後2週間まで	－ 回	1 ^{リットル}	100 ^{リットル}	
2	4月	中旬	/	黒星病・斑点落葉病 ハマキムシ類、シンクイムシ類	アントラコール顆粒水和剤 ダーズバンDF (展 マイリノール)	500 倍 3,000 倍 20,000 倍	4 5 日 4 5 日	4 回 1 回	200 g 33 g 5 cc	100 ^{リットル}	◎ うどんこ病の被害枝や葉は見つけ次第切り取る。 ◎ リンゴコフアブラムシの発生が多い園地では、ウララDF(4000倍、14日前、2回)を4月中に特別散布する。
3	5月	上旬	/	黒星病 斑点落葉病・褐斑病 黒星病・赤星病・黒点病 褐斑病・斑点落葉病	ユニックス顆粒水和剤47 トレノックスフロアブル (展 マイリノール)	2,000 倍 500 倍 20,000 倍	1 4 日 3 0 日	4 回 5 回	50 g 200 cc 5 cc	100 ^{リットル}	
4		中下旬	/	アブラムシ類・キンモンホリカ ハマキムシ類・シンクイムシ類	サイアノックス水和剤 (展 マイリノール)	1,000 倍 20,000 倍	4 5 日	2 回	100 g 5 cc	150 ^{リットル}	◎ 5月下旬頃よりハダニ類の発生が懸念されるので園内を十分に見回り、見つけたら下記防除薬剤により防除を行う。
5	6月	上旬	/	黒星病・斑点落葉病 炭疽病・輪紋病 キンモンホリカ・アブラムシ類 カミムシ類・シンクイムシ類	デランフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 (展 マイリノール)	1,000 倍 4,000 倍 20,000 倍	6 0 日 前 日	3 回 3 回	100 cc 25 g 5 cc	150 ^{リットル}	
6	7月	中旬	/	黒星病・斑点落葉病 炭疽病・輪紋病 キンモンホリカ・アブラムシ類 カミムシ類・シンクイムシ類	デランフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 (展 マイリノール)	1,000 倍 4,000 倍 20,000 倍	6 0 日 前 日	3 回 3 回	100 cc 25 g 5 cc	200 ^{リットル}	◎ ハダニ類の発生に注意する。（別表参照）
7		下旬	/								◎ 褐斑病多発園地では、トップジンM水和剤（1,500倍、前日、6回）を散布する
8	8月	上中旬	/	斑点落葉病・褐斑病 キンモンホリカ・ハマキムシ類 シンクイムシ類	オキシラン水和剤 フェニックス顆粒水和剤 (展 マイリノール)	500 倍 4,000 倍 20,000 倍	1 4 日 前 日	4 回 2 回	200 g 25 g 5 cc	200 ^{リットル}	◎ ハダニ類の発生に注意する。（別表参照）
9	9月	中旬	/	斑点落葉病・褐斑病 キンモンホリカ・ハマキムシ類 シンクイムシ類・ゲムシ類	オキシラン水和剤 フェニックス顆粒水和剤 (展 マイリノール)	500 倍 4,000 倍 20,000 倍	1 4 日 前 日	4 回 2 回	200 g 25 g 5 cc	200 ^{リットル}	◎ 褐斑病の被害落葉は、翌年の重要な伝染源となるため、発生の多かった園地では、①被害落葉を収集し園外に持ち出す、②乗用草刈機により落葉を粉砕する、③ロータリーにより落葉をすき込む、のいずれかの処理を実施する。 なお、落葉処理は3月中旬までに完了する。

別表※ 殺ダニ剤の散布時期については、発生状況に応じて特報で案内します。

	散布時期	対象病害虫	薬剤名	使用基準			液100 ^{リットル} 当たり薬剤量	備考	
				使用倍率	収穫前日数	使用回数			
殺ダニ剤	5月下旬	リンゴハダニ	ピラニカ水和剤	2,000 倍	2 1 日	1 回	50 g	500 ^{リットル}	◎ピラニカ水和剤はリンゴハダニのみの発生時に使う。 ◎ダニゲッターフロアブルは成虫に対する効果が劣るので散布が遅れないように気をつける。 ◎各薬剤の使用は年一回とする。 ◎コロマイト乳剤は単用散布とする。その他の薬剤も基本的には単用での散布が望ましい。
	6月上旬	リンゴハダニ・ナミハダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	前 日	1 回	50 cc		
	7月中下旬	ハダニ類	スターマイトフロアブル	2,000 倍	前 日	1 回	50 cc		
	9月上旬	ハダニ類	オマイト水和剤	750 倍	3 日	1 回	133 g		
	予備剤	ハダニ類	コロマイト乳剤	1,000 倍	前 日	1 回	100 cc		

※ 基本防除を守り、品質の良いリンゴを生産しましょう！
※ 農薬の使用基準を守り、安全なリンゴを生産しましょう！
※ 農薬の保管・取り扱いには十分注意しましょう！

平成31年度 もも病虫害防除こよみ（結実樹対象 有袋基準）

黒部市果樹振興会

回数	月	時 期	散布日	対 象 病 害 虫	使 用 農 薬 名	使用基準			薬剤 必要量 (水100㍑ 当たり)	10a 当たり 散布量	注意事項
						希釈倍率	使用 時期 収穫前 日数	使用 回数			
1	3月	上中旬 発芽前	/	縮葉病	石灰硫黄合剤 または ホーマイコート	7 倍 50 倍	発芽前	- 回 1 回	14 ㍑ 2,000 g	300 ㍑	◎縮葉病防除のため、必ず実施する。できるだけ暖かく風の無い日に散布する。 ◎ コスカシバの虫フンを見つけ次第、被害部を小刀等で削り取り幼虫を捕殺する。
2	特 散	上旬 開花直前	/	せん孔細菌病	ムッシュボルドーDF	500 倍	開花前	- 回	200 g	350 ㍑	◎枯れた枝や芽は、 <u>せん孔細菌病・灰星病</u> に感染している可能性があるので切除する。 ◎せん孔細菌病の多発園は防風対策を徹底する。
3		中旬 落花直後	/	せん孔細菌病 灰星病 展着剤	アグリマイシン-100 ロブラール500アクア マイリノー	1,500 倍 1,000 倍 20,000 倍	60 日 前 日	2 回 3 回	66 g 100 cc 5 cc	350 ㍑	◎ <u>花腐れ症状の枝は、見つけ次第切除し、園地外で処分する。</u> ◎縮葉病の被害葉は見つけ次第、芽基部から摘み取る
		中～下旬	/	コスガシバ (日焼け防止)	ガットサイドS ※粗皮の粗くない樹齢の若い樹が対象	1.5 倍	30 日	1 回	樹幹部及び主枝に塗布		◎ <u>成分MEPを含む殺虫剤</u> （ガットサイドS、トラサイドA乳剤、ラビキラー乳剤、ガットキラー乳剤、サッチューコートS）の樹幹処理は収穫後～収穫まで、 <u>いずれの剤か1回のみ使用とする。</u> ◎ 各剤の樹幹処理時期は、トラサイドA乳剤が収穫後～発芽前まで、ラビキラー乳剤、ガットキラー乳剤、サッチューコートSが休眠期である。
4		下旬	/	せん孔細菌病 展着剤	スターナ水和剤 マイリノー	1,000 倍 20,000 倍	7 日	3 回	100 g 5 cc	350 ㍑	◎ <u>前年、ナシヒメシンクイによる心折れが多発した園では、モスピラン顆粒水溶剤（4,000倍、前日、3回以内）を加用する。</u>
	5月	初旬	/	モモハモグリガ ナシヒメシンクイ モモシンクイガ	コンフューザーMM	10a当り100本					◎ エコファーマー取得者は必ず設置する。
5		上旬	/	黒星病、灰星病 せん孔細菌病 展着剤	デランフロアブル マイリノー	600 倍 20,000 倍	7 日	4 回	166 cc 5 cc	350 ㍑	◎ 前年せん孔細菌病が多発した園地では、 <u>バリダシン液剤5（下表参照：500倍 7日前 4回以内）を加用する。</u> ◎ せん孔細菌病の春型枝病斑は、見つけ次第切除し園地外で処分する。
6		中旬	/	せん孔細菌病 モモハモグリガ アブラムシ類 展着剤	マイコシールド アドマイヤー水和剤 マイリノー	2,000 倍 2,000 倍 20,000 倍	21 日 3 日	5 回 2 回	50 g 50 g 5 cc	400 ㍑	
7		下旬	/	黒星病・灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 展着剤	デランフロアブル サイアノックス水和剤 マイリノー	600 倍 1,000 倍 20,000 倍	7 日 21 日	4 回 3 回	166 cc 100 g 5 cc	400 ㍑	◎せん孔細菌病の発生の恐れがある場合は、バリダシン液剤5（下表参照：500倍 7日前 4回以内）を特別散布する。
8	6月	上旬	/	黒星病・灰星病 せん孔細菌病 展着剤	トレノックスフロアブル マイリノー	500 倍 20,000 倍	7 日	5 回	200 cc 5 cc	400 ㍑	
9		中旬	/	黒星病・灰星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ 展着剤	デランフロアブル ダーズバンDF マイリノー	600 倍 3,000 倍 20,000 倍	7 日 14 日	4 回 5 回	166 cc 33 g 5 cc	400 ㍑	
10		下旬	/	黒星病・灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ シンクイムシ類	トレノックスフロアブル ノーモルト乳剤	500 倍 2,000 倍	7 日 前 日	5 回 2 回	200 cc 50 g	400 ㍑	◎せん孔細菌病の多発園では、袋かけ後にICボルドー412（50倍）を特別散布する。ただし降雨が予想される場合は、薬害防止のため散布を控える。
11	7月	上旬	/	モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 コガネムシ類成虫 展着剤	モスピラン顆粒水溶剤 マイリノー	4,000 倍 20,000 倍	前 日	3 回	25 g 5 cc	400 ㍑	◎収穫期が近いので農薬使用基準を順守する（収穫前日数）。 ◎灰星病の発生の多い園地では、ベルクートフロアブル（2,000倍、前日、3回以内）を加用する。
12		中下旬 除袋後	/	灰星病 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 アブラムシ類 展着剤	アンビルフロアブル スミチオン水和剤40 マイリノー	1,000 倍 1,000 倍 20,000 倍	前 日 3 日	3 回 6 回	100 cc 100 g 5 cc	400 ㍑	◎灰星病罹病果実は見つけ次第枝ごと切除し、園地外で処分する。 ◎ハダニ類の発生が認められた場合は、 <u>マイトコーネフロアブル（1,500倍 前日 1回）</u> を単用散布する。
特 散	8月	上中旬	/	灰星病 展着剤	ロブラール500アクア マイリノー	1,000 倍 20,000 倍	前 日	3 回	100 g 5 cc	400 ㍑	◎「なつおとめ」「川中島白桃」等の中晩性品種の除袋後に散布する。
13		下旬 収穫後	/	モモハモグリガ シンクイムシ類 カイガラムシ類 展着剤	スプラサイド水和剤 マイリノー	1,500 倍 20,000 倍	21 日	2 回	66 g 5 cc	400 ㍑	◎コンフューザーMMを設置した園ではスプラサイド水和剤の散布を省略してもよい。 ◎収穫後にハダニ類の発生が認められた場合は、 <u>スターマイトフロアブル</u> （2,000倍、前日、1回）を散布する。
14	9月	中旬	/	せん孔細菌病 薬害防止	ムッシュボルドーDF クレフノン	500 倍 100 倍	開花前	- 回	200 g 1,000 g	400 ㍑	◎台風の接近等、強風が予想される場合は、速やかにムッシュボルドーDF（500倍 クレフノン100倍加用）を散布する。
15		下旬	/	せん孔細菌病 薬害防止	ムッシュボルドーDF クレフノン	500 倍 100 倍	開花前	- 回	200 g 1,000 g	400 ㍑	◎秋季せん定の際の切り口には、バッチレートまたはトップジンMペーストを塗布し、胴枯病感染の予防に努める。
16	10月	上中旬	/	せん孔細菌病 薬害防止	ムッシュボルドーDF クレフノン	500 倍 100 倍	開花前	- 回	200 g 1,000 g	400 ㍑	
特 散	5～7月		/	せん孔細菌病	バリダシン液剤 5	500 倍	7 日	4 回	200 cc	400 ㍑	◎ せん孔細菌病発生の恐れがある場合に散布する。特に強風被害があった場合、風がおさまり次第速やかに（可能な限り24時間以内に）散布する。
特 散	収穫前 （5～8月）	/	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	1,500 倍	前 日	1 回	66 cc	400 ㍑	◎ 前年収穫後に殺ダニ剤を散布した場合、本年収穫前に散布する殺ダニ剤は前年使用したものと異なる薬剤を使用する。	
	収穫後 （8月下旬以降）	/		スターマイトフロアブル	2,000 倍	前 日	1 回	50 cc	400 ㍑		

平成31年度ナシ病虫害防除暦

黒部市果樹振興会

回数	月	散布 時期	散布 日	対象病虫害	使用農薬	使用基準			液100%当 たり薬剤量	10a 当た り散布量	注意事項	
						使用倍率	収穫前日 数	使用 回数				
特 散	3月	休眠期	/ 黒星病 カイガラムシ類 ハダニ類	カイガラムシ類 サビダニ ハダニ類及び その越冬卵	機械油乳剤95 (展着剤は不要) または 石灰硫黄合剤 (展　マイリノール)	20　倍 7　倍 20,000 倍	－　日 発芽前 －　日	－　日 －　日 －　日	5 ㍲ 14 ㍲ 5 cc	300 ㍲	◎ 胴枯れ病被害部を完全に削り取ってパッチレートかトップジンMペースト(い ずれも3回以内)を塗布する。 ◎　輪紋病(イボ皮)は削り取るか被害枝を切り取ってから散布する。	
				/ 黒星病	ホーマイコート (展　マイリノール)	50 倍 20,000 倍	休眠期	1　回	2000 g 5 cc	300 ㍲	◎　機械油乳剤95との近接散布は行わない	
特 散	4月	りんぼう 脱落直前 初旬	/ 黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症	黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症	デランフロアブル	1,000 倍	6　0　日	4　回	100 cc	300 ㍲	◎　前年黒星病が発生した園地においては、必ず散布する。	
1		りんぼう 脱落期 上旬		黒星病、赤星病、黒斑病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 クワコナカイガラムシ	トレノックスフロアブル ダーズバンDF (展　マイリノール)	500 倍 3,000 倍 20,000 倍	3　0　日 3　0　日	5　回 3　回	200 cc 33 g 5 cc	300 ㍲	◎ 4月上旬から5月上旬の期間は黒星病・赤星病・黒斑病の重要防除時期で ある。	
		開花 直前 中旬		黒星病、赤星病 黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病	マネージDF ベルクートフロアブル (展　マイリノール)	8,000 倍 1,500 倍 20,000 倍	2　1　日 1　4　日	3　回 5　回	12 g 66 cc 5 cc	300 ㍲		
3		受粉後 下旬		黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症	デランフロアブル (展　マイリノール)	1,000 倍 20,000 倍	6　0　日	4　回	100 cc 5 cc	300 ㍲	◎　前年ニセナシサビダニの発生が見られた園では、ハチハチフロアブ ル（2,000倍　30日前　1回以内）を散布する。	
/		末		リンゴコカクモンハマキ モモンシクイガ ナシヒメシンクイ	コンフューザーN	150本/10a						
4		5月		小豆大 上旬	黒星病、赤星病 黒星病、赤星病、黒斑病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類	スコア顆粒水和剤 トレノックスフロアブル ダイアジノン水和剤34 (展　マイリノール)	4,000 倍 500 倍 1,000 倍 20,000 倍	1　4　日 3　0　日 1　4　日	3　回 5　回 6　回	25 g 200 cc 100 g 5 cc	350 ㍲	◎　青ナシには、小袋掛け前にロブラール水和剤（1,500倍　14日　5回 以内）を散布する。
	中旬		黒星病、黒斑病 アブラムシ類	ユニックス顆粒水和剤47 アドマイヤー水和剤 (展　マイリノール)	2,000 倍 2,000 倍 20,000 倍	2　1　日 3　日	3　回 2　回	50 g 50 g 5 cc	350 ㍲	◎　昨年芯腐れ症の発生が多かった園地では、5月下旬までに トップジン M水和剤（1,500倍　前日、6回以内） を追加散布する。		
	下旬		黒星病、黒斑病、心腐れ症 ハマキムシ類、ケムシ類	トレノックスフロアブル マトリックフロアブル (展　マイリノール)	500 倍 2,000 倍 20,000 倍	3　0　日 前　日	5　回 3　回	200 cc 50 cc 5 cc	350 ㍲	◎　ニセナシサビダニの発生の見られる園では、コテツフロアブル （2,000倍　前日　3回以内）を散布する。		
7	6月	上旬	黒星病、黒斑病、輪紋病	オキシラン水和剤 (展　マイリノール)	500 倍 20,000 倍	3　日	9　回	200 g 5 cc	350 ㍲			
8		中旬	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類 クワコナカイガラムシ	ベルクートフロアブル サイアノックス水和剤 (展　マイリノール)	1,500 倍 1,000 倍 20,000 倍	1　4　日 4　5　日	5　回 3　回	66 cc 100 g 5 cc	350 ㍲	◎　輪紋病の感染は6月中旬～7月上旬が一番多いので注意して防除する。		
9		下旬	黒星病、黒斑病、輪紋病 ハダニ類	ドキリンフロアブル ダニサラバフロアブル (展　マイリノール)	1,000 倍 2,000 倍 20,000 倍	3　日 前　日	9　回 2　回	100 cc 50 cc 5 cc	350 ㍲			
10	7月	上旬	黒星病、黒斑病、輪紋病 ハマキムシ類 ナシヒメシンクイ カメムシ類、アブラムシ類 クワコナカイガラムシ	ナリアWDG スミチオン水和剤40 (展　マイリノール)	2,000 倍 1,000 倍 20,000 倍	日 2　1　日	3　回 6　回	50 cc 100 g 5 cc	350 ㍲			
11		中旬	黒星病、黒斑病、輪紋病 シンクイムシ類 ケムシ類、アブラムシ類 コナカイガラムシ類 カメムシ類	ベルクートフロアブル スタークル顆粒水溶剤 (展　マイリノール)	1,500 倍 2,000 倍 20,000 倍	1　4　日 前　日	5　回 3　回	66 cc 50 g 5 cc	350 ㍲			
		12	下旬	黒星病、輪紋病 ハダニ類	オーソサイド水和剤80 マイトコーネフロアブル (展　マイリノール)	1,000 倍 1,000 倍 20,000 倍	3　日 前　日	9　回 1　回	100 g 100 cc 5 cc	350 ㍲	◎　カメムシ類の発生が多い場合はダントツ水溶剤(3,000倍　前日　3回以内) を散布する。	
/		下旬 特別 設置	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	50本/10a						◎ 8月初旬にサムコルフロアブル10を散布する場合は、設置を省略しても良 い。	
特 散	8月	初旬	シンクイムシ類 ハマキムシ類	サムコルフロアブル10 (展　マイリノール)	5,000 倍 20,000 倍	前　日	3　回	20 cc 5 cc	350 ㍲	◎ 収穫期が近いので農薬使用基準を遵守する(収穫前日数)。 ◎　梅雨明けが遅れ、黒星病の発生が懸念される場合は、ストロビード ライフロアブル（3,000倍　前日　3回以内）を散布する。 ◎ 8月以降、ハダニが発生した場合はコロマイト水和剤(2,000倍　前日 1回 以内)を散布する。		
		9月 上旬 幸水 収穫後	シンクイムシ類 カメムシ類 ハマキムシ類	アグロスリン水和剤 (展　マイリノール)	2,000 倍 20,000 倍	前　日	3　回	50 g 5 cc	350 ㍲			
13	10月	上中旬	黒星病、黒斑病	オキシラン水和剤 (展　マイリノール)	500 倍 20,000 倍	3　日	9　回	200 g 5 cc	350 ㍲			
14		下旬	黒星病、黒斑病	オキシラン水和剤 (展　マイリノール)	500 倍 20,000 倍	3　日	9　回	200 g 5 cc	350 ㍲	◎ 10月下旬は黒星病の越冬密度を下げる重要防除時期である。 発生の 多い園では11月上旬（80%程度落葉した頃）にオキシラン水和剤 （3回目）を散布する。 ◎　被害落葉は翌年の重要な伝染源となるため、被害落葉を収集し園外 に持ち出すか、乗用草刈機やロータリー等を利用して落葉処理を実 施する。 なお、落葉処理は3月中旬までに完了する。		

参考

殺ダニ 剤	散布時期	対象害虫	薬剤名	使用基準			液100% 当たり 薬剤量	備考	
				使用倍率	収穫前 日数	使用 回数			
	4月下旬	ニセナシサビダニ	ハチハチフロアブル	2,000 倍	3 0 日	1 回	50 cc	350 ㍲	◎ 同一薬剤の使用は年1回の使用とする。 基本的には、単用での散布が望ましい。
	5月下旬		コテツフロアブル	2,000 倍	前 日	3 回	50 cc		
	6月下旬	ハダニ類	ダニサラバフロアブル	2,000 倍	前 日	2 回	50 cc		
	7月下旬		マイトコーネフロアブル	1,000 倍	前 日	1 回	100 cc		
	8月上旬		コロマイト水和剤	2,000 倍	前 日	1 回	50 g		
	予備剤		カネマイトフロアブル	1,000 倍	前 日	1 回	100 cc		

※ 基本防除を守り、品質の良いナシを生産しましょう！
※ 農薬の使用基準を守り、安全なナシを生産しましょう！
※ 農薬の保管・取り扱いには十分注意しましょう！

平成31年度　ぶどう防除暦　露地「巨峰」基準

黒部市果樹振興会

回数	月	散布時期	散布日	対象病害虫	使用農薬	使用基準			液100% 当たり薬 剤量	10 a 当 たり散 布量	注意事項
						使用倍率	収穫前 日数	使用 回数			
休眠期				晩腐病・黒とう病	被害枝や棚の鉄線に残っている「巻きづる」は除去し、園地外に持ち出し処分する。						
				べと病・褐斑病	感染源となる「被害落葉」は、出来るだけ園地外へ持ち出し処分する。						
特散	3月	下旬	/	越冬病害虫 (黒とう病など)	石灰硫黄合剤 (展　マイリノー)	7 倍 20,000 倍	発芽前	－ 日	14 リットル 5 cc	200 リットル	◎ 石灰硫黄合剤を散布する場合は、 1 回目の発芽前防除（ベンレート 水和剤+ラビキラー乳剤）と散布間 隔が1 週間あくように計画的に実 施する。
1	4月	発芽前 上旬	/	黒とう病・晩腐病 つる割れ病 ブドウトラカミキリ	ベンレート水和剤 ラビキラー乳剤	200 倍 200 倍	休眠期	1 回	500 g	200 リットル	
2		発芽直前 中旬	/	黒とう病・晩腐病 褐斑病・つる割れ病	ベフラン液剤2 5 (展　マイリノー)	250 倍 20,000 倍	休眠期	1 回	400 cc 5 cc	200 リットル	
3	5月	展葉期 上旬	/	黒とう病・晩腐病 べと病 アカガネサルハムシ ブドウスカシバ フタテンヒメヨコバイ	ジマンダイセンフロアブル スミチオン水和剤4 0 (展　マイリノー)	800 倍 1,000 倍 20,000 倍	6 0 日 3 0 日	2 回 2 回	125 cc 100 g 5 cc	250 リットル	◎ コウモリガの耕種的防除 ・ 5～6 月の幼虫喰入期に園内を こまめに見回り、早期発見と捕殺 に努める。 ・ 園内の除草を励行、特に 幹元周 辺はきれいにしておく。 ◎ 前年、黒とう病の多発した園地・ 品種では、 <u>ドーシャスフロアブル (2,000倍、60日前、3回以内)</u> を 散布する。
4		中旬	/	灰色かび病・黒とう病・うどんこ病 べと病	オーシャイン水和剤 リドミルゴールドMZ (展　マイリノー)	2,000 倍 1,000 倍 20,000 倍	7 日 4 5 日	2 回 2 回	50 g 100 g 5 cc	300 リットル	◎ 成分マンゼブを含む農薬(ジマンダイ センフロアブル、リドミルゴールドMZ 等)の年総使用回数は2回である。
5		開花直前 下旬	/	灰色かび病・黒とう病 晩腐病・べと病	フロンサイドSC (展　マイリノー)	2,000 倍 20,000 倍	6 0 日	1 回	50 cc 5 cc	300 リットル	◎ 灰色かび病、うどんこ病の発生の恐れ がある場合は、 <u>フルピカフロアブル 2,000倍</u> (30日前、2回以内)を特別散 布する。ただし、スイッチ顆粒水和剤と の連続散布は避ける。
6	6月	落花直後 上旬	/	灰色かび病・晩腐病 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ スカシバ類	スイッチ顆粒水和剤 パダンSG水溶剤 (展　マイリノー)	3,000 倍 1,500 倍 20,000 倍	3 0 日 2 1 日	2 回 5 回	33 g 66 g 5 cc	300 リットル	◎ パダンSG水溶剤は小粒種ぶどう のデラウエアは適用外である。
7		中旬	/	晩腐病・灰色かび病・黒とう 病・うどんこ病・さび病 褐斑病・すす点病	オンリーワンフロアブル (展　マイリノー)	2,000 倍 20,000 倍	前 日	3 回	50 cc 5 cc	300 リットル	◎ DMI剤(オンリーワンフルアブル、オーシャイン水和 剤)は耐性菌出現防止のため、年総使 用回数は2回までとする
8		袋掛け前 下旬	/	べと病 アザミウマ類 フタテンヒメヨコバイ	エトフィンフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤	1,000 倍 10,000 倍	7 日 2 1 日	4 回 2 回	100 cc 10 g	300 リットル	◎ 幼果期（6 月下旬）以降、果面の 汚れ防止のため展着剤を加用しな い。
9	7月	上旬	/	べと病 チャノキイロアザミウマ コガネムシ類	ランマンフロアブル または、 ライメイフロアブル アディオンフロアブル	2,000 倍 4,000 倍 1,500 倍	1 4 日 1 4 日 7 日	3 回 3 回 5 回	50 cc 25 cc 66 cc	300 リットル	◎ Qil剤(ランマンフルアブル、ライメイフロアブル)は 耐性菌出現防止のため、 <u>年内に使用 するのはどちらか1剤のみ、1回までと する</u> アディオンフロアブルは小粒種ぶ どうのデラウエアは適用外であ る。
10		袋掛け後 中下旬	/	べと病 べと病・さび病	I Cボルドー4 8 Q または、 コサイド3000 加用　クレフノン	25 倍 2,000 倍 100 倍	－ 日 － 日	－ 回 － 回	4 リットル 50 g 1 kg	300 リットル	◎ チャノキイロアザミウマの被害が 予想される場合は、ダントツ水溶 剤4,000倍（前日　3回以内）を散 布する。
11	8月	上旬	/	べと病	I Cボルドー4 8 Q または、 コサイド3000 加用　クレフノン (展　アビオン-E)	25 倍 2,000 倍 100 倍 1,000 倍	－ 日 － 日	－ 回 － 回	4 リットル 50 g 1 kg 100 cc	300 リットル	◎ さび病の多い園地では、コサイド 3000を使用する。
12		中下旬	/	べと病 べと病・さび病	I Cボルドー4 8 Q または、 コサイド3000 加用　クレフノン (展　アビオン-E)	25 倍 2,000 倍 100 倍 1,000 倍	－ 日 － 日	－ 回 － 回	4 リットル 50 g 1 kg 100 cc	300 リットル	◎ 収穫前の最後のボルドー剤散布に アビオン-Eを加用することで、除 袋時の石灰の飛散をやや抑えるこ とができる。
13	9月	収穫後	/	べと病 べと病・さび病	I Cボルドー4 8 Q または、 コサイド3000 加用　クレフノン	25 倍 2,000 倍 100 倍	－ 日 － 日	－ 回 － 回	4 リットル 50 g 1 kg	300 リットル	

灰色かび病 対策 特別散布	SDHI剤	/	灰色かび病、すす点病	カンタスドライフロアブル (展　マイリノー)	1,500 倍 20,000 倍	7 日	3 回	66 g 5 cc	300 リットル	◎ <u>SDHI剤(カンタスドライフロアブル、アフェットフロア ブル)は、耐性菌出現防止のため、年 内に使用するのどちらか1剤のみ、 1回までとする</u>
		/	灰色かび病、晩腐病、黒とう 病、さび病	アフェットフロアブル (展　マイリノー)	2000 倍 20000 倍	7 日	3 回	50 cc 5 cc	300 リットル	◎ カンタスドライフロアブルは小粒種ぶ どうのデラウエアは適用外である ので、注意する。
		/	灰色かび病	ピクシオDF (展　マイリノー)	2,000 倍 20,000 倍	前 日	3 回	50 g 5 cc	300 リットル	

※防除の際はラベルを再度確認して使用基準を遵守すること
※散布の際は近隣作物への飛散がないよう配慮すること

●植物生長調節剤（主な登録内容）

薬剤名	品種	使用目的	使用時期	使用濃度	使用方法
ジベレリン協和粉末	アーリースチューベン	無種子化 果粒肥大促進	満開予定日約14日前 （第1回目） 満開約10日後 （第2回目）	第1回目 100ppm 第2回目 75～100ppm	第1回目 花房浸漬 第2回目 果房浸漬
	巨峰系4倍体品種	無種子化 果粒肥大促進	満開時～満開3日後 （第1回目） 満開10～15日後 （第2回目）	第1回目※ 12.5～25ppm 第2回目 25ppm	第1回目 花房浸漬 第2回目 果房浸漬
			満開3～5日後（落花期）	25ppm	花房浸漬（フルメット液剤10ppmを加用）
	2倍体欧州系品種 （シャインマスカット等）	無種子化 果粒肥大促進	満開時～満開3日後 （第1回目） 満開10～15日後 （第2回目）	第1回目 25ppm 第2回目 25ppm	第1回目 花房浸漬 第2回目 果房浸漬
	サニールージュ	着粒密度低減 および 果粒肥大促進	満開予定日の14～20日前 （第1回目） 満開10～15日後 （第2回目）	第1回目 25ppm 第2回目 25ppm	第1回目 花房浸漬（フルメット液剤3ppmを加用） 第2回目 果房浸漬
ピーエー液剤	アーリースチューベン	花振り防止	満開予定日の11～14日前	300倍	花房浸漬（ジベレリン処理の第1回処理液に添加）
ストマイ液剤20	ぶどう	無種子化	満開予定日の14日前～満開期	200ppm	花房浸漬（ジベレリン処理の第1回処理液に加用）
	ぶどう	無種子化	満開予定日の14日前～開花始期	200ppm	散布又は花房浸漬
フルメット液剤	巨峰系4倍体品種（無核）	着粒安定	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	2～5ppm	・開花始め～満開前は単用で花房浸漬 ・満開期～満開3日後に使用する場合は ジベレリン処理の第1回処理液に加用 して花房浸漬
		果粒肥大促進	満開10～15日後	5～10ppm	果房浸漬（ジベレリン処理の第2回目に加用）または 単用で果房浸漬
		無種子化 および 果粒肥大促進	満開3～5日後（落花期）	10ppm	花房浸漬（ジベレリン処理に加用）
	サニールージュ	着粒密度低減 および 果粒肥大促進	満開予定日の14～20日前	3ppm	花房浸漬（ジベレリン処理の第1回処理液に加用する。ジベレリン第2回目処理は慣行）

※巨峰やピオーネ、安芸クィーン等の大粒系ブドウは第1回目のジベレリン処理を高濃度で行うと枝梗が硬くなるので、低い濃度で処理する。

★ジベレリン協和粉末の薬剤調製量

濃度	100ppm	50ppm	25ppm	12.5ppm	10ppm	5ppm	1ppm
小管1本当たりの水量	500ml	1 ^{リットル}	2 ^{リットル}	4 ^{リットル}	5 ^{リットル}	10 ^{リットル}	50 ^{リットル}
大管1本当たりの水量	2 ^{リットル}	4 ^{リットル}	8 ^{リットル}	16 ^{リットル}	20 ^{リットル}	40 ^{リットル}	200 ^{リットル}

★ストマイ液剤20の薬液調整量

濃度	希釈倍率	ストマイ液剤20のストレプトマイシン濃度は20%です。 したがって、濃度200ppmの処理液を1 ^{リットル} 作る際に 必要な薬量は1mlです。
200ppm	1000倍	

★フルメット液剤の薬液調製量

濃度	10ppm	5ppm	3ppm	2ppm	1ppm
1ピン10ml 当たりの水量	1 ^{リットル}	2 ^{リットル}	3.3 ^{リットル}	5 ^{リットル}	10 ^{リットル}